

2 転移を有する前立腺癌フレイル症例に対する漢方薬の筋力・排尿・骨密度への影響について

独立行政法人 国立病院機構 神戸医療センター泌尿器科¹⁾
センプククリニック²⁾
三谷ファミリークリニック³⁾
あきば伝統医学クリニック⁴⁾

大岡 均至¹⁾、千福 貞博²⁾、三谷 和男³⁾、秋葉 哲生⁴⁾

【目的】

有転移前立腺癌フレイル症例に対する補中益気湯(以後TJ41)の筋力・排尿・骨密度への有用性に着目し検討した。

【対象と方法】

M1前立腺癌で、PSA・転移病巣の進行がなく(CR)、フレイルの基準を満たす198症例。134症例に対しては、TJ41 2.5g.2食前を30か月継続(A群)。64症例に対してはTJ41無投与とした(B群)。検討項目は1)体重減少, 2)易疲労感を感じる日数, 3)握力, 4)歩行速度, 5)活動性の低下, 6) L2-4・大腿骨頸部骨密度(BMD)の変化率, 7)国際前立腺症状スコア(IPSS), 8)IPSS-QOLスコア, 9)最大尿流率(Qmax), 10)最大1回排尿量(MVV), 11)残尿量(PVR, 12)直腸診による安静時スコア(DRESS RS), 13)直腸診収縮時スコア(DRESS SS), 14)overall Patient -reported outcome VAS(PRO: 0;全く問題なし, 10;最も悪い)

【結果】

A群での処方前と30か月後の評価項目の変化は, 1) -2.1kg→+1.0kg, 2) 6.0→2.3/週, 3) 19.1→25.5kg, 4) 44.5→57.2m/分, 5) 8.7→4.1, 6) BMD(L2-4):-3.8%→-6.3%, lt.femur: -4.2→-7.2, 7)14.5→7.5, 8)5.1→2.2, 9)8.2→12.8ml/sec., 10)132.8→191.8ml, 11)99.6→22.7ml, 12)2.0→3.0, 13)2.0→3.0, 14)8.6→3.6と6)以外の全項目で有意に改善($p<0.001$)し、上肢・下肢・肛門挙筋(骨盤底筋)の筋力・排尿効率の有意な改善が認められた。

一方、B群では全検討項目が増悪傾向を示した。骨密度に関しては、L2-4(30か月後のA群とB群):-3.8%(-1.5%/年) vs.-6.3%(-2.5%/年)、lt.femur: -4.2%(-1.7%/年) vs. -7.2%(-2.9%/年)とA群のBMD減少率が有意に低率であった($p<0.001$)。

【考察】今回の検討では、TJ41はフレイル尺度に加え、筋力・排尿・骨密度や生活満足度まで著明に改善させた。このことは、前立腺癌フレイル症例に対する全身状態の改善が、結果的に筋力・排尿・骨密度を含めたADL/QOLにも好影響を及ぼすことを示唆している